


4. 宮城県




地理

県庁所在地	仙台市		
地域区分	北部		気仙沼市、栗原市、登米市、大崎市、色麻町、加美町、涌谷町、美里町、南三陸町
	中部		仙台市、石巻市、塩竈市、多賀城市、東松島市、松島町、七ヶ浜町、利府町、大和町、大郷町、富谷町、女川町、大衡村
	南部		白石市、名取市、角田市、岩沼市、蔵王町、七ヶ宿町、大河原町、村田町、柴田町、川崎町、丸森町、亶理町、山元町
人口	2,303,160人(全国第14位)		
特長	<ul style="list-style-type: none"> ・ササニシキ、ひとめぼれなどの稲作中心の農業が行われ、米所として有名 ・「牛タン」は、利休や喜助、伊達の牛たんが有名店である ・日本三景の一つ「松島」、伊達正宗の像がある「青葉城」が観光地 ・日本三名湯の一つである秋保温泉 ・楽天イーグルスの本拠地(楽天Koboスタジアム宮城を専用球場) 		

観光

観光地	中部	<p>松島(松島) 日本3景の一つでもある松島。松島湾内外にある大小260余りの諸島が織り成す絶景。</p> <p>円通院(えんつういん) 円通院は松島にある臨済宗妙心寺派の寺院。紅葉シーズンの夜のライトアップは特に人気で観光客で賑わいます。</p> <p>五大堂(ごだいどう) 松島のシンボリックな存在である五大堂。建物は1604年の建築で重要文化財となっていて、華やかさはありませんが歴史を感じる風格があります。</p>	  
	南部	<p>蔵王 樹氷(ざおう じゅひょう) : 刈田郡蔵王町 「樹氷」が育つためには様々な自然条件が重なる必要があり、国内はおろか、世界的にも限られた地域でしか見ることが出来ないそうです。日本とは思えないような広大な樹氷原での大パノラマの樹氷は一見の価値あり。</p>	
	中部	<p>仙台城跡 : 仙台市 今はなき伊達政宗が築城した仙台城。慶長年間に伊達政宗が築造してから、廃藩置県・廃城令までの約270年に渡り伊達氏代々の居城であり、仙台藩の政庁であった。伊達政宗が築城した仙台城は約2万坪で、全国規模の城であった。幾度となく、地震などによる損害を受けながらも修復を繰り返し、奥羽越前藩同盟主として戊辰戦争を経るも、一度も戦火を見ることなく要塞としての機能を終えて、その後は明治初期から大正にかけてその大半が失われた。</p>	
	南部	<p>白石城(しろいしじょう) : 白石市 主として仙台藩伊達氏の支城として用いられ、片倉氏が代々居住した。九州の八代城などと並んで、江戸幕府の一国一城制の対象外とされて明治維新まで存続した。天守の代用となっていた三階櫓は、支城という格と幕府への配慮から天守の名をはばかり大櫓と名づけられたとされる。かつての城は、本丸、二の丸を中心に、幾重にも外郭を備えた堅城であった。虎口のうち、大手門付近には幅が変化し、鍵の手に折れる通路など、特に工夫がみられる。</p>	
	北部	<p>気仙沼港 震災では大きな被害を受けた気仙沼ですが、世界三大漁場の一つである。三陸沖を操業域とする漁船の主要な水揚げ港の一つ。</p>	
		<p>一目千本桜(ひとめせんぼんざくら) : 柴田郡大河原町 清流・白石川と残雪の蔵王連峰を背景に咲き誇る約1200本の桜 全長約8kmにわたる桜並木は、東北を代表する桜の名所になっています。</p>	

特産品

食品	食品	<ul style="list-style-type: none"> ・お米 — 全国有数の産地。主な品種は、ひとめぼれ ・牡蠣 — 「松島かき」は「広島かき」と並んで有名 ・デリシャストマト — 高い糖度と希少性を誇る ・フカヒレ — 気仙沼港周辺が有名 ・ほや — 宮城の特産品 ・パプリカ — 生産量全国第1位 	
食品	料理	<ul style="list-style-type: none"> ・白石うめめん — 長さ10cmぐらいの短い麺が特徴 ・笹かまぼこ — 仙台の名物 ・牛タン — 仙台の名物 ・はらこ飯 — 阿武隈川の鮭とイクラをのせたご飯料理 ・ずんだ餅 — 枝豆を餡にして餅にからめたもの 	
工芸品	工芸品	<ul style="list-style-type: none"> ・鳴子漆器 — 国指定伝統的工芸品 ・雄勝硯 — 国指定伝統的工芸品。2億5千万年前の粘板岩が原石 ・宮城伝統こけし — 国指定伝統的工芸品。首を回すとキュッキュッと音が鳴る鳴子のこけし 	 鳴子漆器  雄勝硯  宮城伝統こけし

産業

拠点がある有名企業	株式会社じもとホールディングス(仙台市青葉区) 東北電力株式会社(仙台市青葉区) 株式会社七十七銀行(仙台市青葉区)
主要産業	1位: サービス業 2位: 卸売・小売業 3位: 建設業、不動産業
産業別就業者の割合	◇第一次産業 約4.4% ◇第二次産業 約23.2% ◇第三次産業 約72.4%
名目県内総生産額	約8兆9,210億円
産業に関する施設・史料館	<ul style="list-style-type: none"> ◇新幹線総合車両センター 東日本旅客鉄道(JR東日本)の新幹線車両基地の一つで、新幹線総合車両センターの一般公開イベントなどが開催されている。 ◇ニッカウキスキー 仙台工場 宮城峡蒸留所 日本におけるウイスキー製造の第一人者、竹鶴政孝が北海道余市に続く蒸留所として選んだ宮城峡。「ニッカ池」を中心に日本庭園が整備され、その中に赤レンガを採用した洋風の工場や貯蔵庫が立ち並ぶ。

性格

県民性	全体	人当たりのいい、のんびり屋が多いとされている。 大藩である伊達62万石に庇護されてきたことが影響し、プライドが高く東北随一の都会派を気取る向きもある。のんびりしていても意外と頑固なので機嫌を損ねると大変に。でも消極的で闘争心は弱いから、扱い方に苦労も。
	男性	忍耐強く、人当たりも良い。のんびり屋で何事も慎重だが、そのぶんファイトが感じられない。 人の意見に耳を貸さず、自分の意見を頑強に通そうとする傾向がある。他人に軽視されると不機嫌になることも。
	女性	口うるさくもないし、こせこせしたところがない。大らかな女性が多く、明るく積極的。騒ぐときはハデに騒ぐ。

歴史(人物)

伊達政宗(出羽国米沢(現山形県米沢市)生まれ。初代仙台藩主)



安土桃山から江戸時代前期の武将。仙台藩藩祖。幼名梵天丸、藤次郎。

父は米沢城主輝宗、母は山形城主最上義守の娘義姫(保春院)。幼少のころ右眼を失明、「独眼竜」とも称された。

従三位権中納言。賜称号羽柴のち松平。元和3(1617)年4月、日光東照宮の遷宮があった。現在、陽明門下から並んでいる諸大名献上の灯笼はこのときのものである。

この中に政宗の献上した南蛮鉄の灯笼がある。政宗は、この時国元にあり情報入手が遅れた。

しかし4月下旬、江戸にいる嗣子忠宗から諸大名灯笼献上の報せを受けるや、懇意にしている人々や幕府要人に手紙を送り自分の献上する灯笼の設置場所について巻き返しを図った。結果は「樓門之内」に決定し、満足できるものとなった。このことは政宗の普段からの人脈の広さ、要所を抑えた外交手腕を示している。

『伊達治家記録』に、豊臣政権以来しばしば「御懇意ノ御方」と称される人々が登場、政宗のため種々画策している様子が記されている。

18歳で家督を相続して以来、天正16(1588)、17年の南東北の統一と豊臣秀吉に対する弁明、18年の小田原参陣への遅参、18、19年の葛西大崎一揆および蒲生氏郷との確執、文禄4(1595)年の豊臣秀次事件と政宗への疑惑、慶長5(1600)、6年の和賀一揆と伊達氏扇動説など、いずれも政宗の20歳代から30歳代前半にかけての血気盛んなときであり、ひとつ処置を誤れば伊達氏は滅亡の運命にあった。

南東北の統一の時は、佐竹・葦名・大崎・最上氏らの包囲網に対し各個撃破と和睦策によって危機を脱し、小田原参陣では、伊達成実の主戦論(奥羽の覇者として豊臣軍を迎撃)と片倉景綱の参陣説(伊達氏の家名存続説)を慎重に判断している。

徳川家康との親密さも葛西大崎一揆ごろには明確であり、政宗を遠流に処し、転封のうえ秀宗(後宇和島藩祖)に跡を継がせる処置まで考えたといわれる秀次事件のときの秀吉への家康の助言などはその一例といえよう。

しかし、和賀一揆への疑惑から、慶長5年の所謂「百万石の御墨付」を棒に振ってもある。

徳川政権成立までの政宗の半生は、戦国大名の姿そのものであり、幾多の危機を乗り越えた危機管理能力は、伝統的な奥州探題として誇りと意地の発露といえる。慶長5年仙台に築城(仙台城)開始、8年岩出山城より移り、名実ともに外様の雄藩・仙台藩の藩祖となる。

慶長高は徳川方についた関ヶ原の戦いあと60万石(のち62万石)。詩歌・書・能・茶道など伊達氏歴代の教養を、政宗もまた身に付けており、当代一級のものであった。海外にも広く眼を向け、慶長18年9月、支倉常長らを、メキシコ、スペイン、ローマ教皇のもとに派遣、「奥州王」として交易を画策したが、成功しなかった。

「欲征南蛮時作此詩」と題する詩の一節に「欲征蛮国未成功 函南鷲翼何時奮 久待扶搖万里風」と詠んだ気概は70歳で没するまで終生藩主の座にあったことと無縁ではないかもしれない。後半生は、領国経営に専念し、文化の導入を図った。

歴史

中世	鎌倉時代には、奥州藤原氏追討の恩賞により、葛西氏などの関東地方の有力氏族や武士たちが守護・地頭として現在の宮城県域に多く入植した。それら有力氏族の中で、源頼朝の側近・伊澤家景が多賀城の「留守所長官」として陸奥留守職に任ぜられ、東北地方の統治を任された。伊澤家景は現在の宮城県利府町に居城を築き、生涯を利府で過ごした。伊澤家景の子の代から伊澤氏は留守氏と呼ばれるようになり、家景の子孫たちも代々、陸奥留守職に任ぜられた。 室町時代に入ると、南北朝の争いが起こったが、足利一族の斯波氏が奥州探題を称して多賀城に入ると、争いは次第に沈静化していった。斯波氏の傍流である大崎氏(宮城県古川市)が奥州管領職に着くと、大崎氏が東北地方(奥羽両国)の盟主となった。1392年に奥羽両国が鎌倉府直轄支配下に置かれ、大崎氏の奥州管領権は大きく制約を受けた。1400年に大崎氏が奥州探題となると、再び大崎氏は東北地方の盟主の座に上り、以後、戦国時代に到るまで、東北地方は室町幕府一奥州探題・大崎氏を中心とした支配体制となる。
近世(前半)	戦国時代になると、南東北の奥羽山脈西側に連なる盆地群に拠点を置く武将たちの勢力が強くなり、大崎氏の権勢は衰退し、最終的に福島盆地(伊達郡・信夫郡)と米沢盆地(置賜郡)を本拠地とする伊達氏の軍門に下った。 安土桃山時代に戦国大名・伊達政宗は常陸国の戦国大名・佐竹義重や会津地方の戦国大名・蘆名氏らに勝利し、東北地方(奥羽)の南半分を征服して奥羽の覇者となった。しかし、政宗は豊臣秀吉に服属し、秀吉の奥州仕置によって、征服した会津地方や先祖ゆかりの伊達郡などを奪い取られた。この処分に対する不満を抱いた政宗は、秀吉の奥州仕置によって取り潰された葛西氏・大崎氏の旧臣を扇動して、「葛西大崎一揆」を起こさせるが、この一揆扇動は蒲生氏郷に露見し、政宗は秀吉から一揆の鎮圧を命じられる。政宗は沼城から秀吉の家臣・木村吉清を救出し、「葛西大崎一揆」を鎮圧した。戦後、秀吉は政宗の領地を、それまでの山形県南部・福島県・宮城県南部から宮城県・岩手県南部へと北へ追いやった。政宗は旧・岩出山(現・大崎市)に居城の岩出山城を築き、新しい領地の統治に当たった。この頃から政宗は徳川家康に接近し、秀吉が死ぬと徳川家康の政権奪取に協力する。1600年の関ヶ原の戦いでは、政宗は東軍の重鎮として家康の勝利に貢献した。 伊達政宗は、豊臣氏や徳川氏との緊張関係を考慮して、天然の地形が防御に適した青葉山に居城として仙台城を構えた。1600年に城の縄張りを始め、「千代(せんだい)」を「仙臺(仙台)」に改めて、城下町の建設も開始した。冬季の乾燥や季節風対策として、防火林や防風林、防雪林の植樹を城下町に奨励した。又、四ツ谷用水の開削もあって、仙台は多くの居住者を涵養できるようになり、62万石の仙台藩の藩経済を背景に、仙台城下は奥州一の都会となった。江戸中期には実石高は100万石を超え、港町である石巻は江戸(東京都区部)との交易で栄えた。家老の片倉氏は代々白石城(現・宮城県白石市)を居城とし、家臣や一族を一国一城令にもかかわらず「要害」と言う特有の制度化で藩内を治めさせた。要害としては満谷城、岩出山城、金山城、岩沼城、角田城、丸森城、寺池城、佐沼城、宮沢城、高清水城、不動堂城、川崎城、平沢城、鉛岡城、亶理城、坂本城、岩ヶ崎城、滝野館、石森城、米谷城、武田館、宮崎館、宮崎城、千石城、大窪城、吉岡城、宮床館、村田城などがあつた。
近世(後半)	伊達氏は源頼朝の奥州合戦で功を立てて伊達郡に封じられた関東武士の末裔で、鎌倉時代から陸奥国伊達郡(現在の福島県伊達市と福島県伊達郡、福島市の一部)を中心に勢力を拡大した。戦国時代 - 安土桃山時代に本拠地を伊達郡から置賜郡(米沢)、岩出山、仙台と家臣団や寺社、職人集団を引き連れて移動したため、現在仙台に残る寺社や旧家、職人の家系には、伊達郡をルーツとする系図あるいは伝承の残る家柄が少なくない。伊達氏は代々「陸奥守」を称し、初代仙台藩祖・伊達政宗以来、東北の雄藩であった。 伊達政宗はスペイン帝国との太平洋貿易を企図し、仙台領内で洋式大型帆船・サン・ファン・パウティスタ号を建造。1613年、家臣・支倉常長を使節とする慶長遣使使節団をスペイン王国およびローマ法王庁(バチカン)へ派遣した。使節派遣の目的は、スペイン王国との通商にとどまらず、倒幕のためのスペインとの軍事同盟であったともいわれている。支倉常長はスペイン国王およびローマ法王に謁見した。しかし、徳川幕府が日本国内でキリスト教徒を大弾圧したため、目的は達成されなかった。 仙台藩は幕末に、幕府の命令で北海道の警護を担当した。このとき会津藩や庄内藩などの東北諸藩も北海道の警護を担当した。仙台藩の警衛地と領地は北海道の約1/3を占めた。 仙台藩は1868年の戊辰戦争の際に奥羽越列藩同盟(同盟政府)の盟主となった。仙台藩は孝明天皇の弟(明治天皇の叔父)・輪王寺宮(のちの北白川宮)を擁立し、輪王寺宮を「東武皇帝」として即位させ、仙台藩主・伊達慶邦は征夷大将軍に就任する予定であったといわれる。しかし同盟政府は薩長軍を主力とする明治新政府軍に敗れ、仙台藩は石高を28万石にまで減らされた。このとき、秩禄が減って困窮した家臣団を救うために、仙台藩は蝦夷地(北海道)への入植を行った。仙台藩は明治新政府と共同で札幌市を開拓したほか、単独で伊達市などを開拓した。こうして仙台藩は北海道開拓の歴史上に功績を残した。

災害

平成	2011年(平成23年)3月11日(金)に発生した東北地方太平洋沖地震とそれに伴って発生した津波、およびその後の余震により引き起こされた大規模地震災害。 宮城県は、震源地に最も近く、福島県や茨城県と共に激震であった。津波の被害としては、浸水面積327km ² と浸水域の人口約33万人はともに3県最大だったため、宮城県のみで阪神・淡路大震災を上回る犠牲者を出した。
----	------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

有名学校(学力/スポーツ)

有名高校	学力	<p>仙台第二高校 ↳宮城県で18年連続で東北大合格者数ランキング1位</p> <p>宮城第一高校 仙台第一高校 仙台二華高校</p>
有名高校	スポーツ	<p>【野球】東北高校 <有名選手:佐々木主浩> 東北高校では2年の夏からエースとして3季連続甲子園大会に出場し、3年の春夏はベスト8に進出した。東北高校の同級生、チームメイトに元阪神の葛西稔がいる。 東北福祉大学時代は全日本大学野球選手権大会で2度準優勝(2年・3年)。1989年のドラフト会議で横浜大洋ホエールズが1位指名、「ハマの大魔神」という異名で呼ばれ活躍。 <有名選手:ダルビッシュ有(テキサス・レンジャーズ)> 1年生秋からエースに就き、3年生時には150km/hを計測している。2年春夏、3年春夏と4度甲子園に出場。2年春は開会式後、女性に握手を求められた際強く引っ張られ右棘下筋痛で全治2週間と診断される。結果3回戦で花咲徳栄に敗退。2年夏は一回戦で腰を痛めるものの決勝進出。決勝で坂克彦を擁する常総学院に敗れて準優勝。大会後に野球部キャプテンに就任。3年春では1回戦で熊本工相手に史上12度目・10年ぶりとなるノーヒットノーランを達成する。しかし2回戦を前に今度は右肩を痛め、準々決勝に登板せず敗北。最後の夏の甲子園では1回戦から2試合連続完封。3回戦でも千葉経大附相手に8回まで無失点に抑えるも、今大会通算27イニング目となる9回に初失点を喫し、その後延長戦の末敗戦。自身が最後の打者となった。</p> <p>【野球】仙台育英高校 過去27回の春の甲子園出場、8回の夏の甲子園出場を誇る。 最高順位は準優勝で、優勝経験はなし。</p> <p>【女子バレー】古川学園高校 日本代表選手の出身者が多い</p> <p>【バスケット】明成高校 2009年のウィンターカップで優勝</p> <p>【女子サッカー】常盤木学園 なでしこJAPANのメンバーを多数輩出</p> <p>【ラグビー】仙台育英高校</p>

有名人

出身有名人	タレント	<p>◇狩野英孝:栗原市 ◇サンドウィッチマン/伊達みきお:泉市、富澤たけし:仙台市 ◇マギー審司:気仙沼市 ◇森公美子:仙台市</p>
	歌手	◇高橋ジョージ:栗原市 ◇大友康平:塩竈市(出生)
	俳優	◇千葉雄大:多賀城市 ◇菅原文太:仙台市 ◇鈴木京香:黒川郡富谷町育ち
スポーツ選手	サッカー	◇今野泰幸(サッカー日本代表、ガンバ大阪):仙台市
	野球	<p>◇佐々木主浩(横浜ベイスターズ シアトル・マリナーズ):仙台市 ◇小坂誠(読売巨人):柴田郡柴田町 ◇斎藤隆:仙台市</p>
	その他	<p>【フィギュアスケート】 ◇羽生結弦(ソチ五輪金メダル):仙台市</p> <p>【フェンシング】 ◇千田健太(ロンドンオリンピック 銀メダル):気仙沼市</p> <p>【卓球】 ◇福原愛:仙台市</p> <p>【バレーボール】 ◇大友愛(元全日本女子):仙台市 ◇菅山かおる(元全日本女子):岩沼市</p>

プロスポーツチーム

サッカー	ベガルタ仙台 (J1)
野球	<p>東北楽天ゴールデンイーグルス 仙台市宮城野区にある楽天Koboスタジアム宮城を専用球場(本拠地) 2004年新球団として発足、2013年初の日本シリーズ優勝を達成</p> <p>東北レディア(女子プロ野球)</p>
バスケットボール	仙台89ERS(bjリーグ)

その他

その他	その他	<p>【牛タン発祥の地】 第二次世界大戦後、仙台にもGHQが進駐した。その際、大量に牛肉を消費する駐留米軍が残したタンとテールを有効に活用するために、1948年(昭和23年)、仙台の焼き鳥店「太助」初代店主・佐野啓四郎が、牛タン焼きの専門店を開業したことが「仙台牛タン」の始まりである。 高度経済成長期になって、他都市から仙台への転勤族や単身赴任者(仙チョン族)が増えると、昼食時や夜の街で仙台牛タン焼きの味を知り、仙台赴任からとりわけ東京に戻ったサラリーマンの間で仙台牛タン焼きは評判になった。</p>
その他	その他	<p>【松島】 「松島やああ松島や松島や」の俳句で有名な松島は、宮城県にある松島を訪れた松尾芭蕉がその美しい風景に感動した余りにこのような句を作った</p>